



イーレックス株式会社[9517]

再生可能エネルギーをコアに  
電力新時代の先駆者になる

2021年3月期 上期  
決算補足説明資料

2020年11月11日

# 将来見通しに関する注意事項

本資料は当社グループの企業情報などの提供の為に作成されたものであり、国内外を問わず、当社の発行する株式その他有価証券への勧誘を構成するものではありません。

本資料に記載される業界、市場動向又は経済情勢等に関する情報は、現時点で入手可能な情報に基づいて作成しているものであり、弊社はその真実性、正確性、合理性及び網羅性について保証するものではなく、また、弊社はその内容を更新する義務を負うものでもありません。

また、本資料に記載される弊社グループの計画、見通し、見積り、予測、予想その他の将来情報については、現時点における弊社の判断又は考えにすぎず、実際の弊社グループの経営成績、財政状態その他の結果は、国内外のエネルギー政策、法令、制度、市場等の動向、弊社グループの事業に必要な許認可の状況、土地や発電設備等の取得・開発の成否、天候、気候、自然環境等の変動等により、本資料記載の内容又はそこから推測される内容と大きく異なることがあります。

本資料に関するお問い合わせ先  
イーレックス株式会社 IR広報室  
Mail: [ir.info@erex.co.jp](mailto:ir.info@erex.co.jp)

# 決算概要

～2021.3期 上期～

| (単位：億円) | '20.3期<br>上期累計<br>(実績) | '21.3期<br>上期累計<br>(実績) | '21.3期<br>通期<br>(計画) | 対前年同期<br>増減率 | 通期計画<br>進捗率 |
|---------|------------------------|------------------------|----------------------|--------------|-------------|
| 売上高     | 414.8                  | 473.1                  | 958.8                | 14.0%        | 49.3%       |
| 営業利益    | 55.5                   | 47.2                   | 83.1                 | △15.0%       | 56.8%       |
| 経常利益    | 53.6                   | 46.2                   | 84.6                 | △13.9%       | 54.6%       |
| 純利益*    | 30.5                   | 26.8                   | 50.8                 | △12.4%       | 52.7%       |
| EBITDA* | 63.9                   | 69.0                   | 129.2                | 7.9%         | 53.3%       |

\*親会社株主に帰属する当期（上期）純利益

\*EBITDA…税金等調整前当期純利益+支払利息+減価償却費+工事負担金償却等

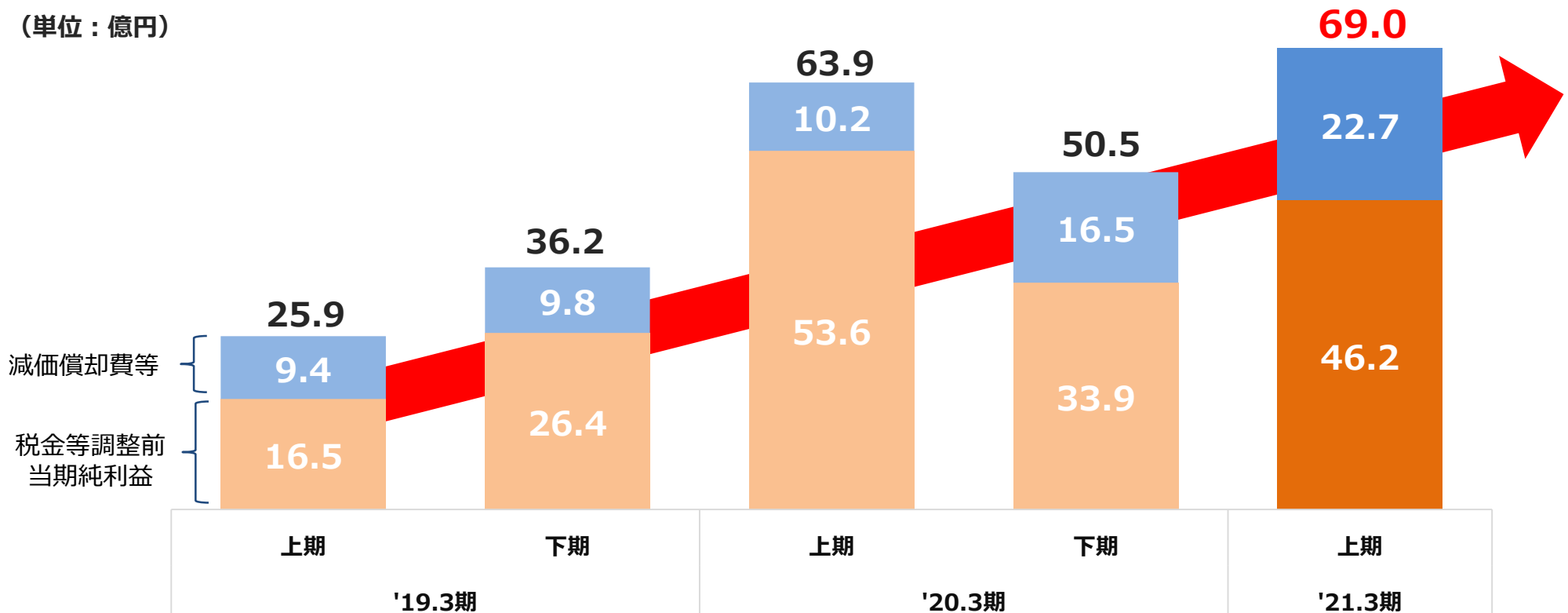
| (単位：億円) | '20.3期<br>第2四半期<br>(実績) | '21.3期<br>第2四半期<br>(実績) | 対前年同期<br>増減率 |
|---------|-------------------------|-------------------------|--------------|
| 売上高     | 255.3                   | 287.2                   | 12.5%        |
| 営業利益    | 36.2                    | 34.5                    | △4.9%        |
| 経常利益    | 35.4                    | 35.6                    | 0.7%         |
| 当期純利益*  | 17.6                    | 21.6                    | 23.1%        |

\*親会社株主に帰属する四半期純利益

# EBITDAの推移

■ 当社の収益力を示すEBITDA※は順調に拡大。今期上期は過去最高を更新。

(単位：億円)



\*EBITDA…税金等調整前当期純利益+支払利息+減価償却費+工事負担金償却等

## ① 小売販売電力量は約1,566GWh(前年比+20.3%)

- ・コロナ影響により電力業界全体の電力需要は減少
- ・EGMを中心に販売強化、販売電力量は前年同期比、計画比ともに上回る

## ② 各発電所は概ね順調に稼働

- ・土佐、佐伯、大船渡はほぼ計画通り稼働
- ・豊前は、第2Qは順調に稼働し収益に貢献

## ③ 販売価格は低下、調達価格も低減したが十分補完できず。

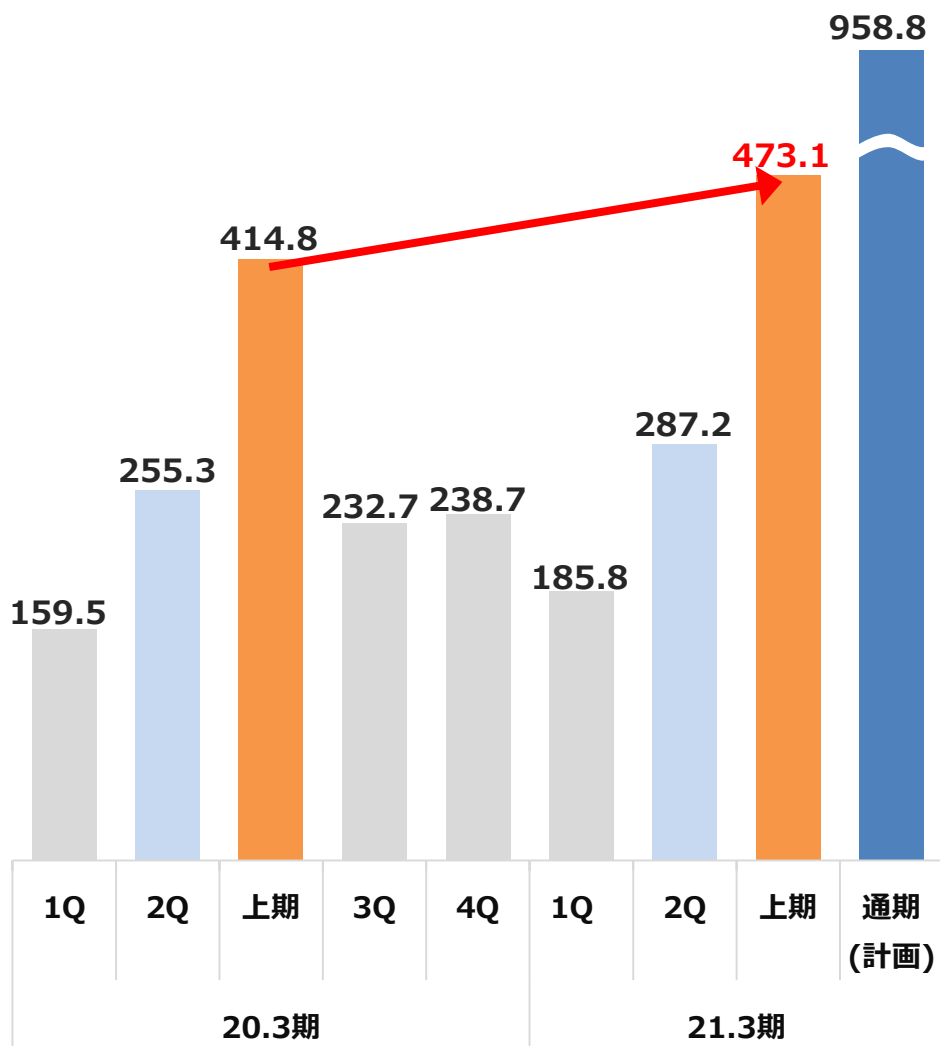
- ・第1Qは燃料価格下落に伴う燃料費調整等の影響から販売価格は低下、調達価格も低減したものの利益率は下がり、収益は悪化。
- ・第2QはJEPXからの調達の増やし、利益率の低下を抑制し収益を確保。
- ・買収した「T'dash(旧：xoomエナジージャパン)」が第2Qから業績に寄与

## ④ 将来に向けての施策

- ・下期には大型バイオマスの環境調査を開始予定
- ・今後の成長を見据えて、ファイナンスを実施(9月7日発行)

# 2021.3期上期 売上高

(単位：億円)



上期 売上高 **473.1** 億円

前年同期比 +14.0%

## 高圧小売

- 需要の伸びはあったものの、販売単価低下により売上高減(同-0.3%)

## 低圧小売

- 売上高増(同+20.1%)
- 需要家件数増加 約20万9千件(同+7万件)

## 卸売

- 調達電源を相対取引や市場にも活用

## 豊前発電所

- 他社に全量売電

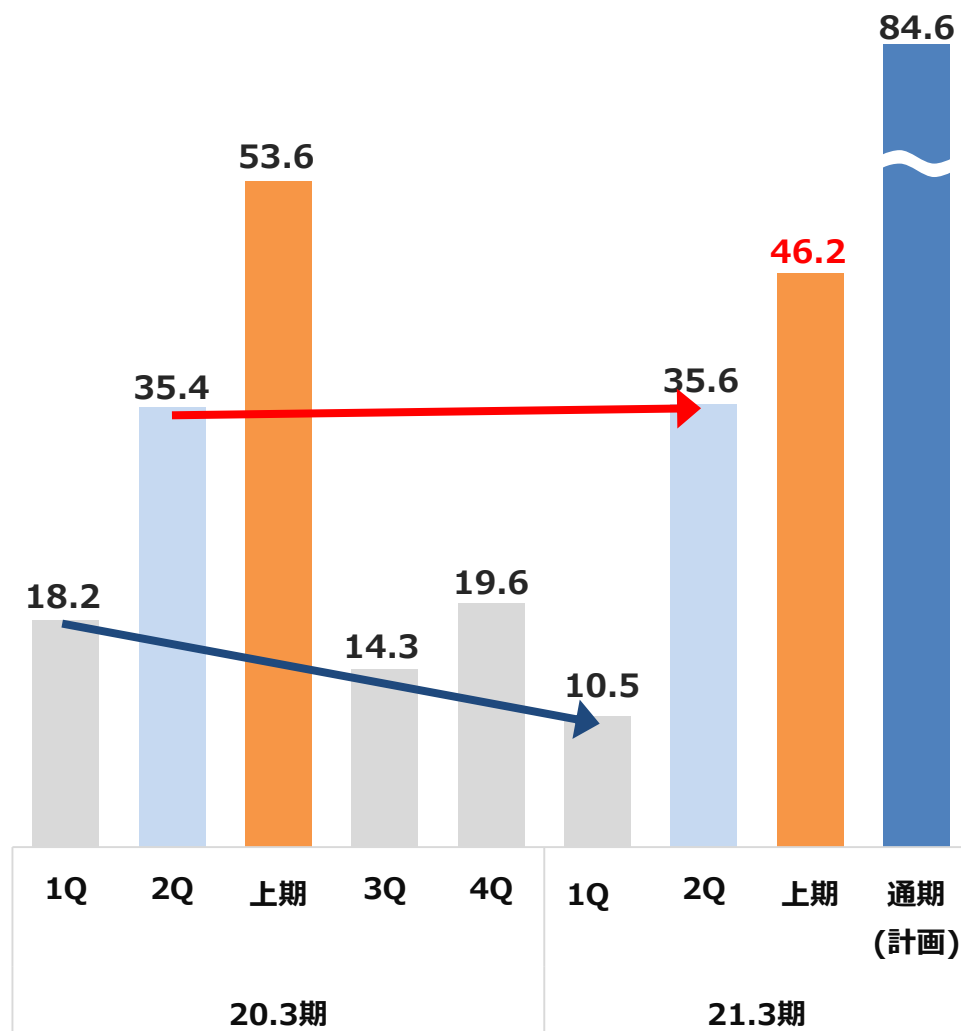
## ※大船渡発電所

- イーレックスが全量受電



# 2021.3期上期 経常利益

(単位：億円)



上期 経常利益 **46.2** 億円

前年同期比 -13.9%

- 販売電力量は増加したものの、販売単価の低下が大きく、利益率は縮小し、収益性は悪化。但し、第2Qは改善。
- 豊前は第2Qの順調な稼働により、収益に貢献

営業利益率：10.0% (同：-3.4%)

第1Q：6.8% 第2Q：12.0%

経常利益率：9.8% (同：-3.2%)

第1Q：5.7% 第2Q：12.4%

# 2021.3期上期ハイライト(高圧小売)

## ■ 販売電力量は前年度を上回り、計画も上回る

- ・ 販売電力量前年同期比18.0%増
- ・ 使用量の大きい需要家への営業強化、直販の拡販等の施策により販売電力量は計画を上回る
- ・ 「市場連動プラン」の導入等、多角的なプランを展開し顧客ニーズに対応

【高圧】 販売電力量

(MWh)

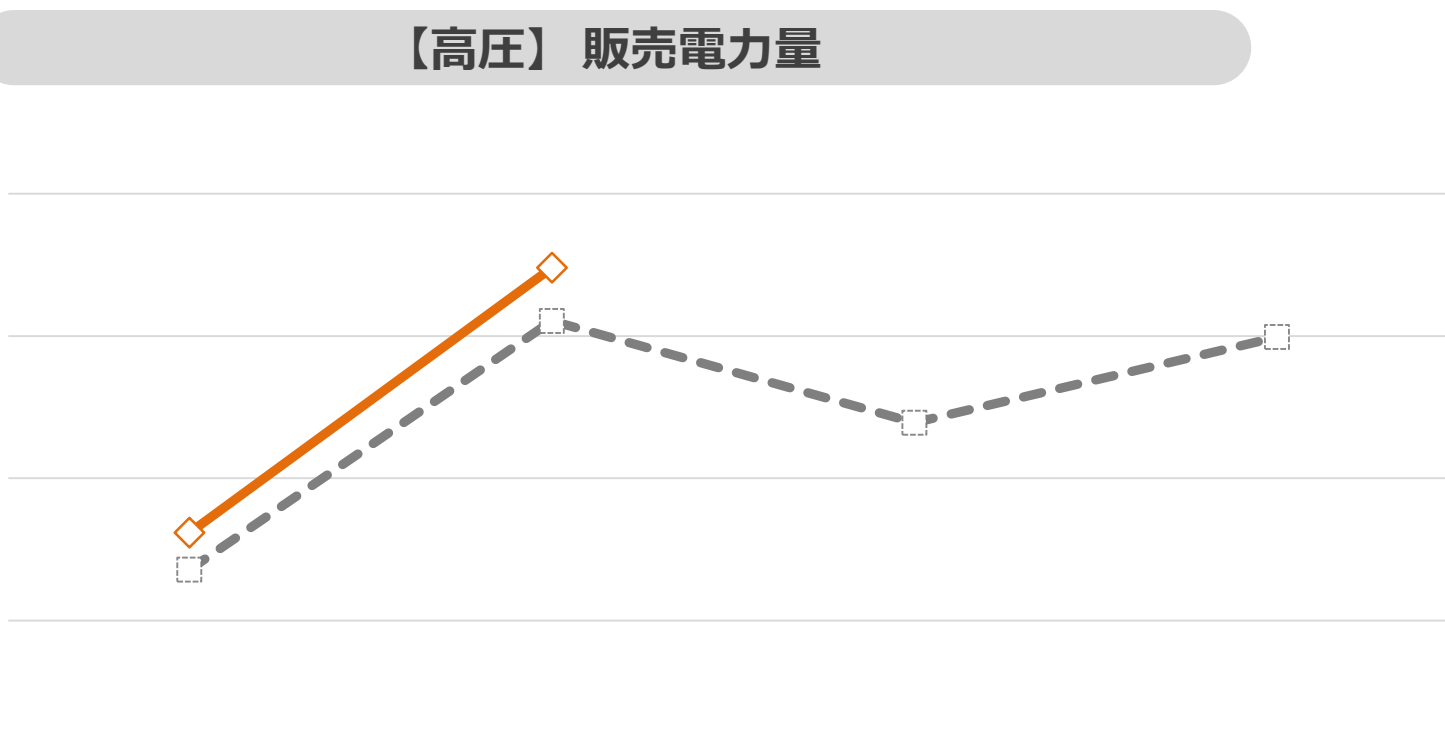
700,000

600,000

500,000

400,000

300,000



■ 販売電力量(計画)

435,681

610,558

538,967

599,198

■ 販売電力量(実績)

461,719

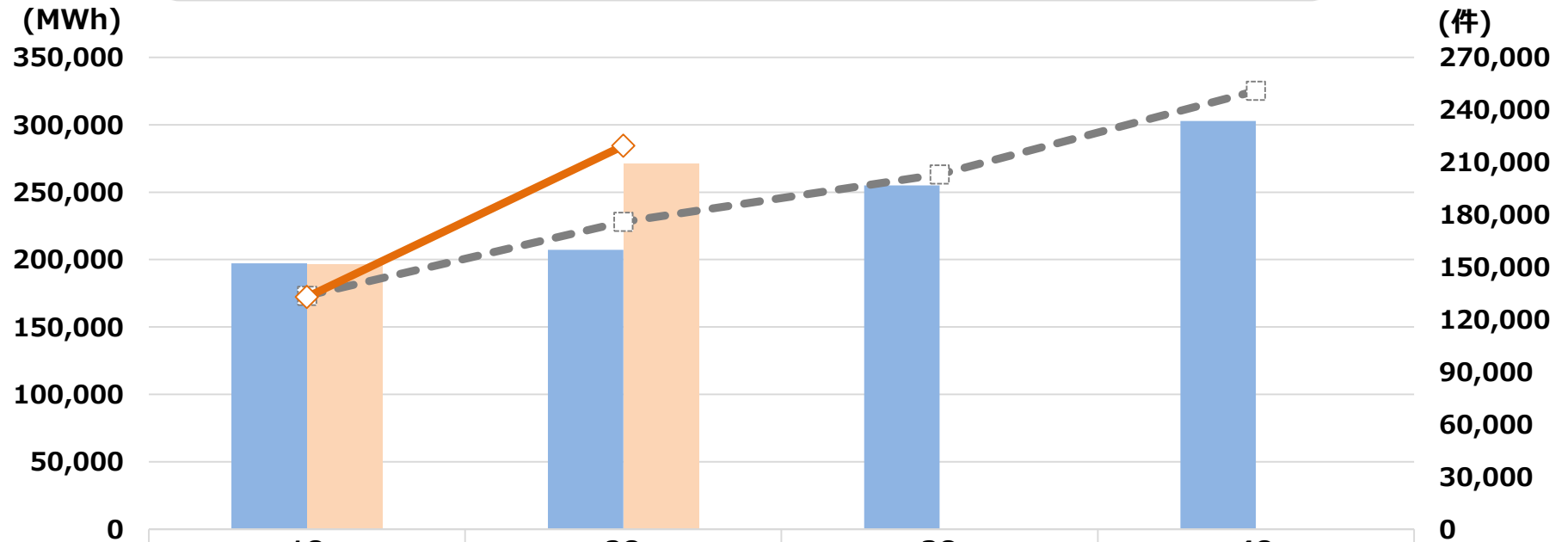
647,954

# 2021.3期上期ハイライト(低圧小売)

## ■ 販売電力量、件数ともに計画を上回る

- ・ 販売電力量前年同期比26.4%増、件数約7万件増
- ・ 「エバーグリーン・リテイリング」は、主要パートナーへの販促キャンペーン実施により件数増加。
- ・ 「T'dash(xoomエナジージャパン)」は、第2Qから業績貢献
- ・ 「沖縄ガスニューパワー」は代理店営業により順調に進捗

【低圧】 販売電力量、件数

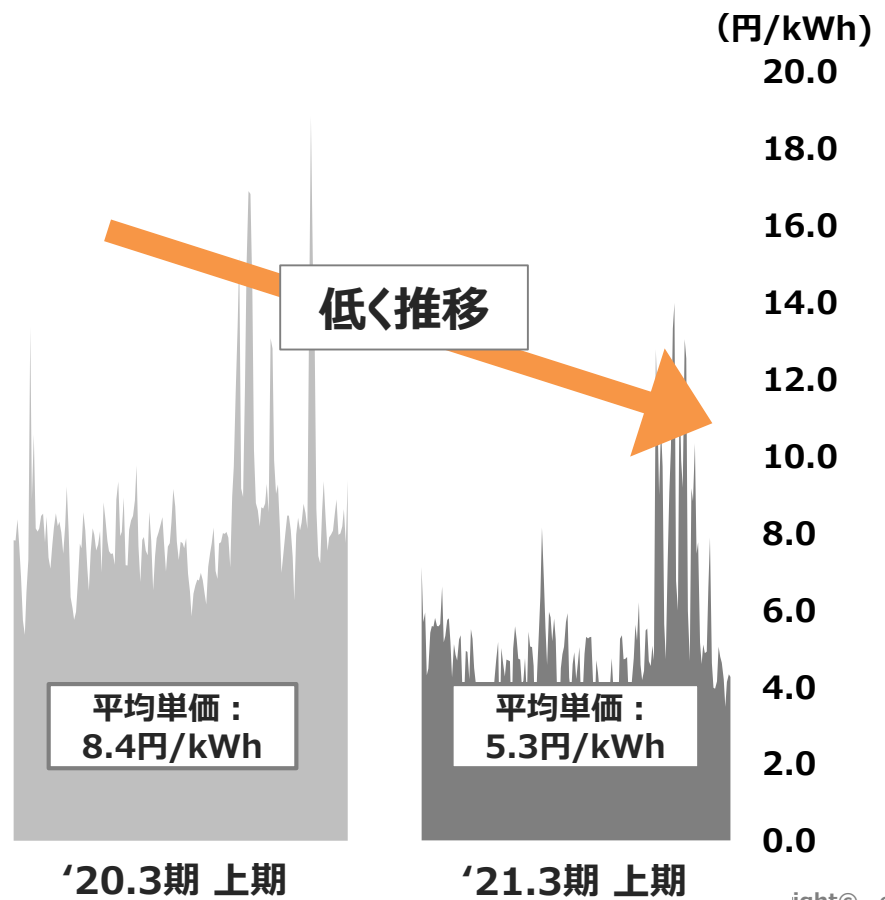


|             | 1Q      | 2Q      | 3Q      | 4Q      |
|-------------|---------|---------|---------|---------|
| ■ 件数(計画)    | 152,113 | 159,849 | 196,764 | 233,658 |
| ■ 件数(実績)    | 151,451 | 209,368 |         |         |
| ■ 販売電力量(計画) | 173,157 | 227,986 | 263,250 | 325,228 |
| ■ 販売電力量(実績) | 172,104 | 284,339 |         |         |

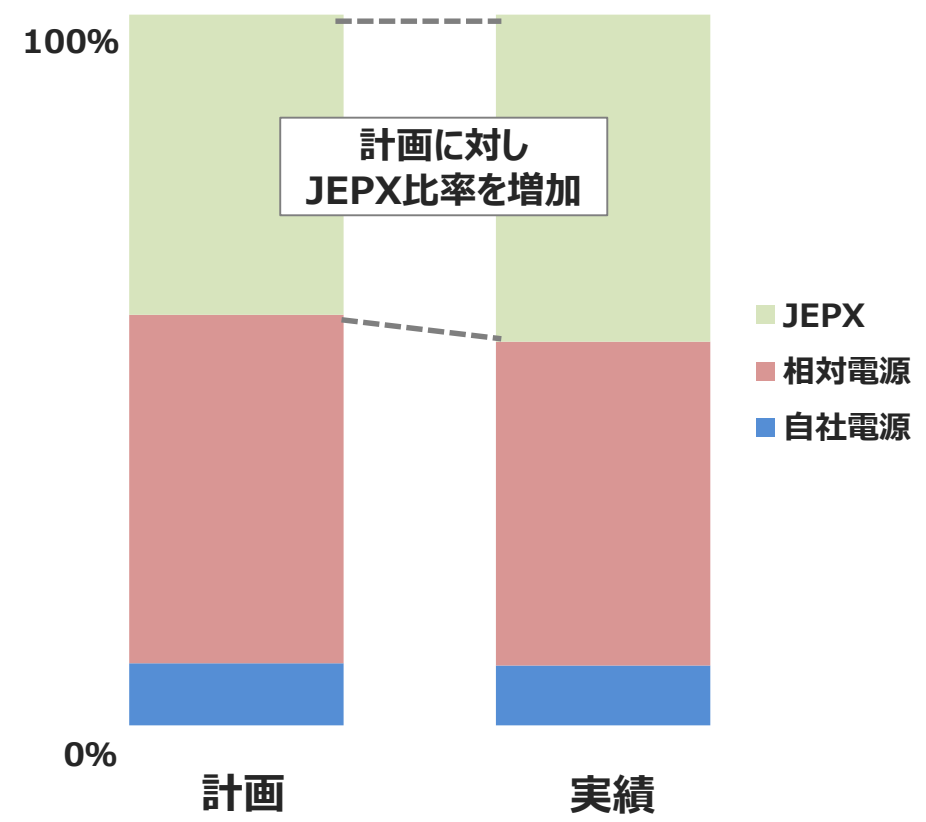
# 2021.3期上期 電源調達構成

- 2021.3期上期のJEPX価格は、コロナ影響による需要減により全国的に低位で推移 (前年同期比▲3.1円/kWh)
- JEPXの調達割合を当初計画より拡大させ、調達原価の低減を図る

### JEPX価格推移 (システムプライス)

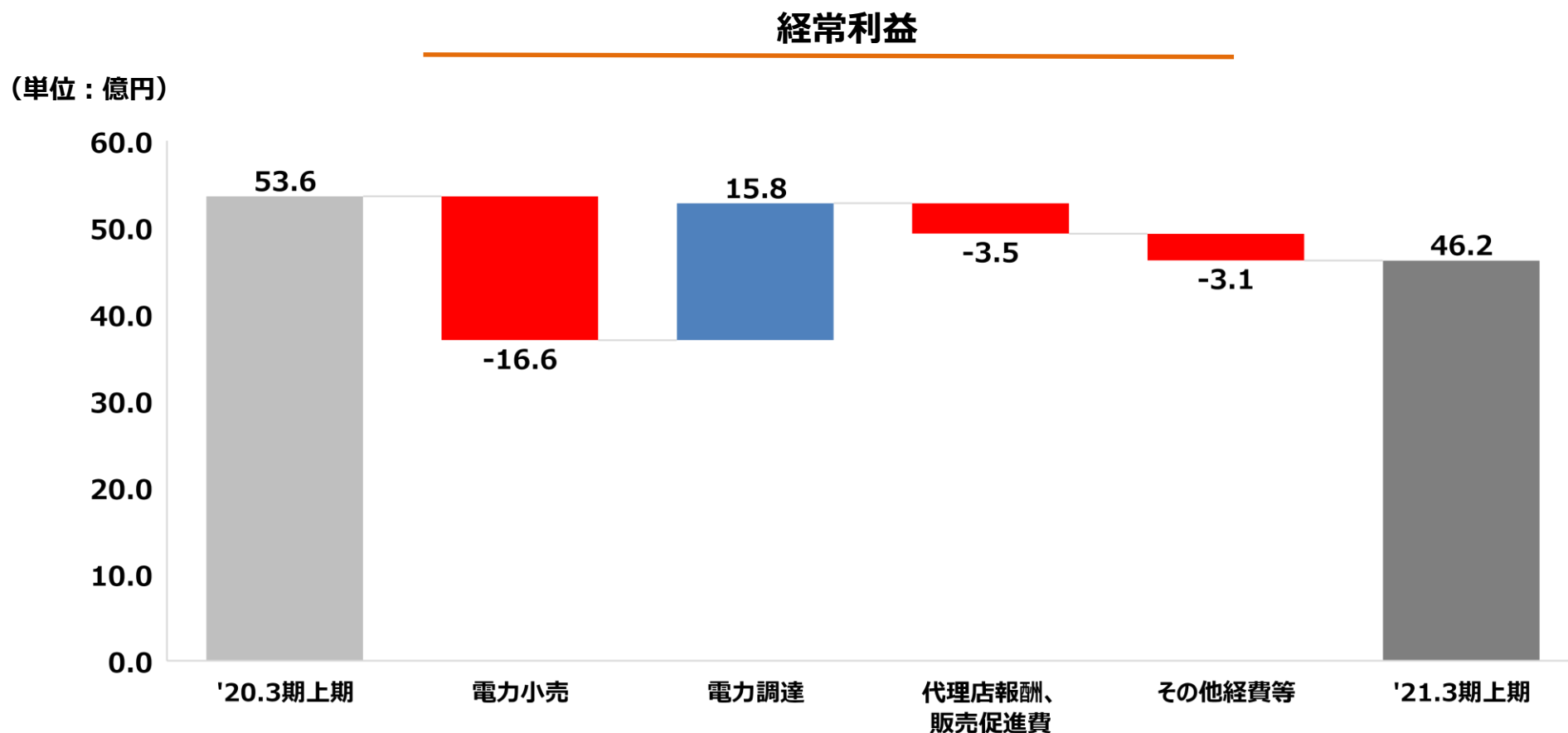


### 調達割合 (今期 上期)



# 2021.3期上期の前年同期比による減益要因

- 競争に伴う値下げ、燃料調整等により販売単価は大きく低下
- JEPX価格は大幅に低下したため、計画よりもJEPXからの調達割合を増やし、調達コストの低下を図ったが、販売と調達の利ざやは縮小。販売電力は増加したものの、収益は悪化
- 豊前は収益に貢献



# 連結貸借対照表の概要

(単位：億円)



|              | 2020.3期末     | 2021.3期 上期   |           |               |
|--------------|--------------|--------------|-----------|---------------|
|              |              | 実績           | 増減        | 主な増減要因        |
| 流動資産         | 362          | 391          | 28        | 売掛金の増加+22億円   |
| 固定資産         | 684          | 697          | 12        |               |
| <b>資産合計</b>  | <b>1,047</b> | <b>1,088</b> | <b>40</b> |               |
| 流動負債         | 258          | 275          | 17        | 短期借入金の増加+16億円 |
| 固定負債         | 446          | 457          | 11        |               |
| <b>負債合計</b>  | <b>705</b>   | <b>733</b>   | <b>28</b> |               |
| 株主資本         | 241          | 255          | 14        |               |
| 評価・換算差額等     | 19           | 16           | -3        |               |
| 非支配株主持分      | 81           | 83           | 2         |               |
| <b>純資産合計</b> | <b>342</b>   | <b>355</b>   | <b>12</b> |               |
| 現金及び預金       | 162          | 178          | 16        |               |
| 有利子負債        | 513          | 539          | 26        | 短期借入金の増加      |
| 自己資本比率       | 25.0%        | 25.0%        | 0.0%      |               |

# 連結キャッシュ・フロー計算書 (単位：億円)

|                      | 2020.3期<br>通期 | 2021.3期 上期 |                |
|----------------------|---------------|------------|----------------|
|                      |               | 実績         | 期首残高からの変動要因    |
| 現金及び現金同等物の期首残高       | 102           | 162        |                |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー     | 65            | 48         |                |
| 税金等調整前当期純利益          | 87            | 46         |                |
| 減価償却費 (Depreciation) | 23            | 19         |                |
| 運転資金*の増減             | -41           | -11        |                |
| 法人税等の支払額             | -12           | -21        |                |
| その他                  | 7             | 14         |                |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー     | -158          | -40        | T'dash取得によるもの等 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー     | 153           | 8          | 短期借入金が増、配当の支払等 |
| 現金及び現金同等物の期末残高       | 162           | 178        |                |
| フリーキャッシュ・フロー         | -92           | 7          |                |
| 純有利子負債               | 351           | 360        |                |

\*売掛金 + 棚卸資産 + 未収入金 - 仕入債務

## 電力 小売

### 下期も現在の施策を積極的に推進し、売上高の上積みを見込む

#### 【高圧】

- 販売電力量拡大に向けて、使用量の大きい需要家への営業強化、直販の推進
- CO2フリープランの拡大

#### 【低圧】

- 販売パートナーの選択と集中、付加サービスの拡大(CO2フリープラン、蓄電池とのセットプラン)

## 電源 調達

- 相対電源の一部見直しにより調達コスト改善
- 低位に推移すると想定するJEPXの一層の活用

## 発電

### 既存発電所

- 順調稼働に向け、安全・安定運転を徹底
- 各発電所は第3Qに定期修繕を計画（土佐は大規模修繕を実施予定）

### 建設中発電所(沖縄) 沖縄における電力調達の課題を解消

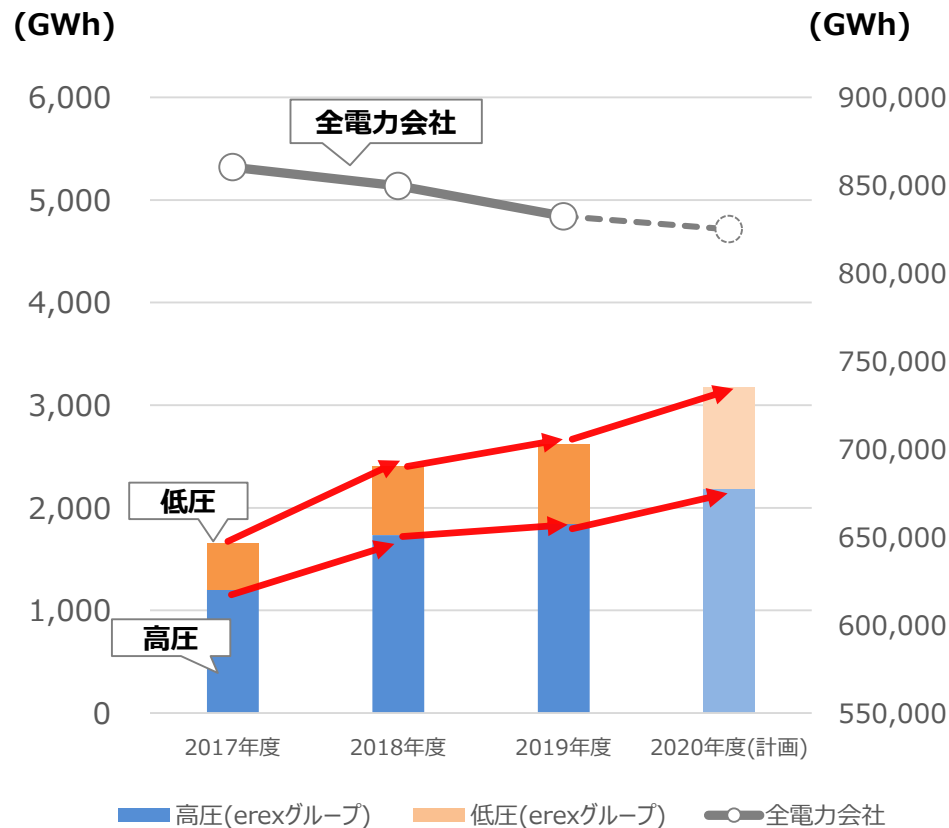
- 2020年7月稼働に向け、需要を拡大



# 電力小売事業の拡大

- 電力業界全体の需要は低下する中で、当社は販売電力量を拡大。下期も一層の拡大を目指す
- 低圧顧客数は21万件に到達。エバーグリーンを中核とした販売体制により、さらなる件数増加を目指す

## 販売電力量の推移



## 利益率の高い低圧の販売体制を強化



販売3社体制により  
低圧は更なる拡大を目指す

# 沖縄中城バイオマス発電所 建設状況

- 2021年7月営業運転開始に向けて、計画通り進捗
- 沖縄地域は顧客拡大のポテンシャルが高い。本発電所は安価かつ安定した電源として期待大

近景(2020年10月撮影)



遠景(2020年10月撮影)



完成予想図



|        |                   |
|--------|-------------------|
| 発電出力   | 4.9万kW            |
| FIT単価  | 24円/kWh<br>(20年間) |
| 燃料     | PKS、木質ペレット        |
| 当社出資比率 | 45%               |

# 【参考】第3回新株予約権の概要

| 新株予約権<br>(行使価額修正条項および行使許可条項付) |  |         |                             |    |    |      |
|-------------------------------|--|---------|-----------------------------|----|----|------|
| 想定調達額                         | 約100億円   | 新株予約権個数 | 80,000個<br>(新株予約権1個につき100株) |    |    |      |
| 潜在株式数<br>希薄化率                 | 潜在株式数8,000,000株<br>希薄化率(対2020年3月末の議決権総数)15.67% |         |                             |    |    |      |
| 行使可能期間                        | 約2年間<br>(2020年9月24日～2022年9月30日)                |         |                             |    |    |      |
| 行使価額                          | 当初   | 1,268円  | 上限                          | なし | 下限 | 888円 |
| 割当先                           | SMBC日興証券およびみずほ証券                               |         |                             |    |    |      |
| 行使許可条項                        | 割当先は当社の許可がない限り本新株予約権の行使ができない                   |         |                             |    |    |      |

# 【参考】第3回新株予約権 資金使途

- **2030年の日本の電源構成における再生エネルギーの割合が22～24%以上**  
⇒当社の強みであるバイオマス発電に政策はフォロー
- **FIT制度の改定(バイオマス発電は競争入札が適用。また、来年度よりFIP制度に移行)**  
⇒Non-FIT大型バイオマスを先駆けて開発することにより、先行メリットを得て継続的にプロジェクトを創出
- **海外で燃料事業を拡充**  
⇒東南アジアの複数の国でバイオマス発電事業を実現の要請あり、新たな収益源確立の機会

| 具体的な資金使途                      | 支出予定時期           | 金額   |
|-------------------------------|------------------|------|
| ① カンボジアの水力発電における投融資資金         | 2020年9月～2023年12月 | 22億円 |
| ② 大型バイオマス発電所建設に係る開発資金         | 2020年9月～2022年3月  | 21億円 |
| ③ 電力小売事業におけるM&Aの投資資金に係る借入金の返済 | 2020年9月～2021年3月  | 30億円 |
| ④ 将来の燃料事業及び発電事業における投融資資金      | 2020年12月～2023年3月 | 28億円 |

# 次のステージに向けて

# ESGへの展開

パリ協定発効

Step-1

再エネ主力電源化

FITの見直し

政府方針  
「2050年温室効果ガス実質ゼロ」

Step-2

法整備、制度拡充  
・カーボンプライシングの採用

カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現へ

海外施策

カンボジアの森林資源、再生エネ開発

カンボジア水力発電

新燃料開発

ベトナム、フィリピンでのバイオマス発電所建設

雇用創出  
経済発展

二国間クレジットで日本のCO2削減への貢献も視野

国内施策

国内バイオマス発電所

6基体制へ

Non-FIT大型バイオマス発電所

CO2フリープランの販売拡大

地域活性化

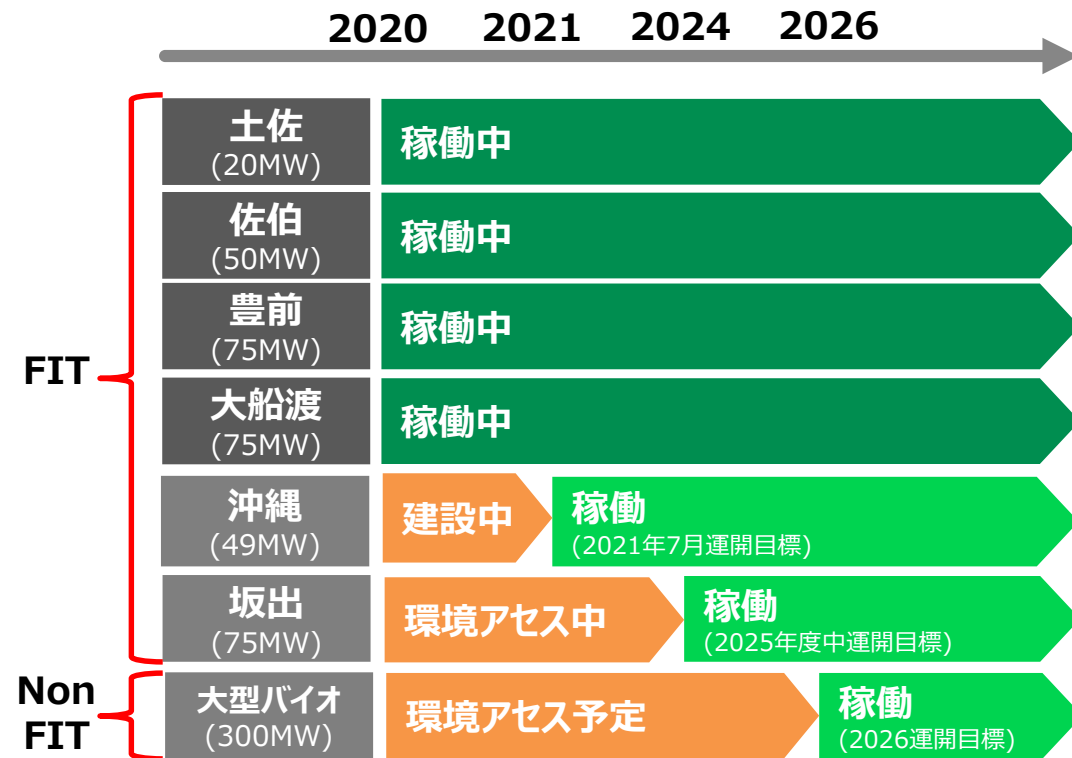
SDGsの高まり



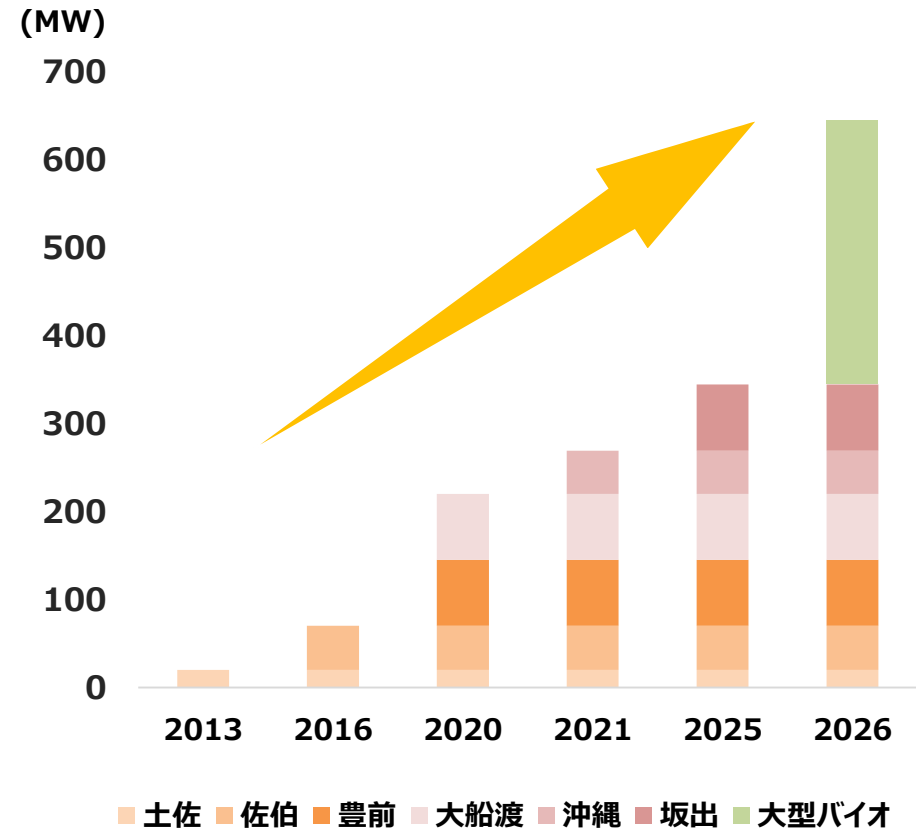
# バイオマス発電事業の進展⇒Non-FIT大型バイオマスへ

- 安定した電気を供給できるバイオマス発電所を継続して開発
- 2025年度には、6地点で合計出力344MWに到達。すべてFIT制度が適用
- これまで培った技術をもとに、Non-FIT大型バイオマスを実現に向けFS中。今期下期には、環境調査開始を予定

## 発電プロジェクト スケジュール



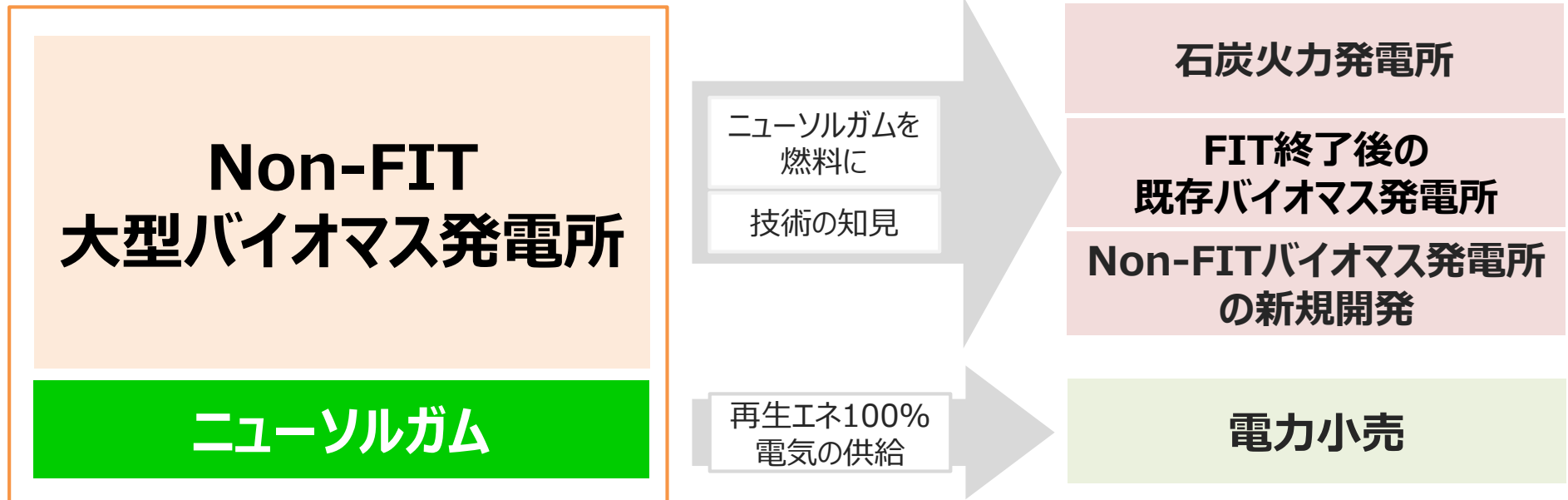
## バイオマス発電出力合計 推移



# Non-FIT大型バイオマス発電所の政策的意義

- FIT制度終了後における、既存バイオマス発電所の運転継続と新規バイオマスの開発に道を拓く
- 大型バイオマス向けに開発する「ニューソルガム」は、石炭火力発電所でも混焼用バイオマス燃料として使用可能であり、CO2を大きく低減

バイオマス発電を持続可能なものに導く。  
日本のエネルギー政策にとって意義は大きい



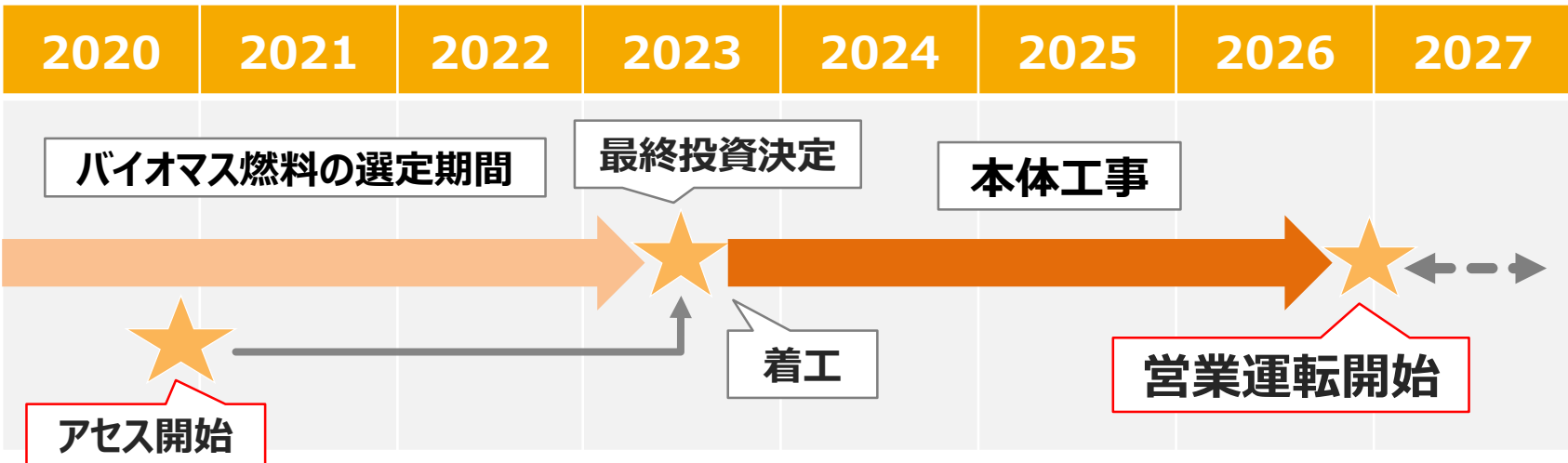


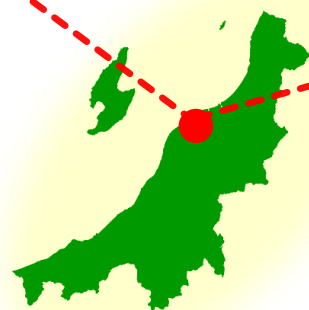
- 世界最大級300MWのNon-FIT大型バイオマス発電所は、2年間のFSを踏まえて、計画実現に向けて大きく前進

## 大型バイオ実現に向けた進捗

- 送電系統接続の回答は10月30日に受領済み
- 建設予定地は「新潟県 聖籠町 東港近郊」で決定
- 環境アセスメントは11月下旬に開始予定
- バイオマス燃料は新燃料「ニューソルガム」及び木質ペレットで検討  
「ニューソルガム」は実証試験開始

## 現在のスケジュール



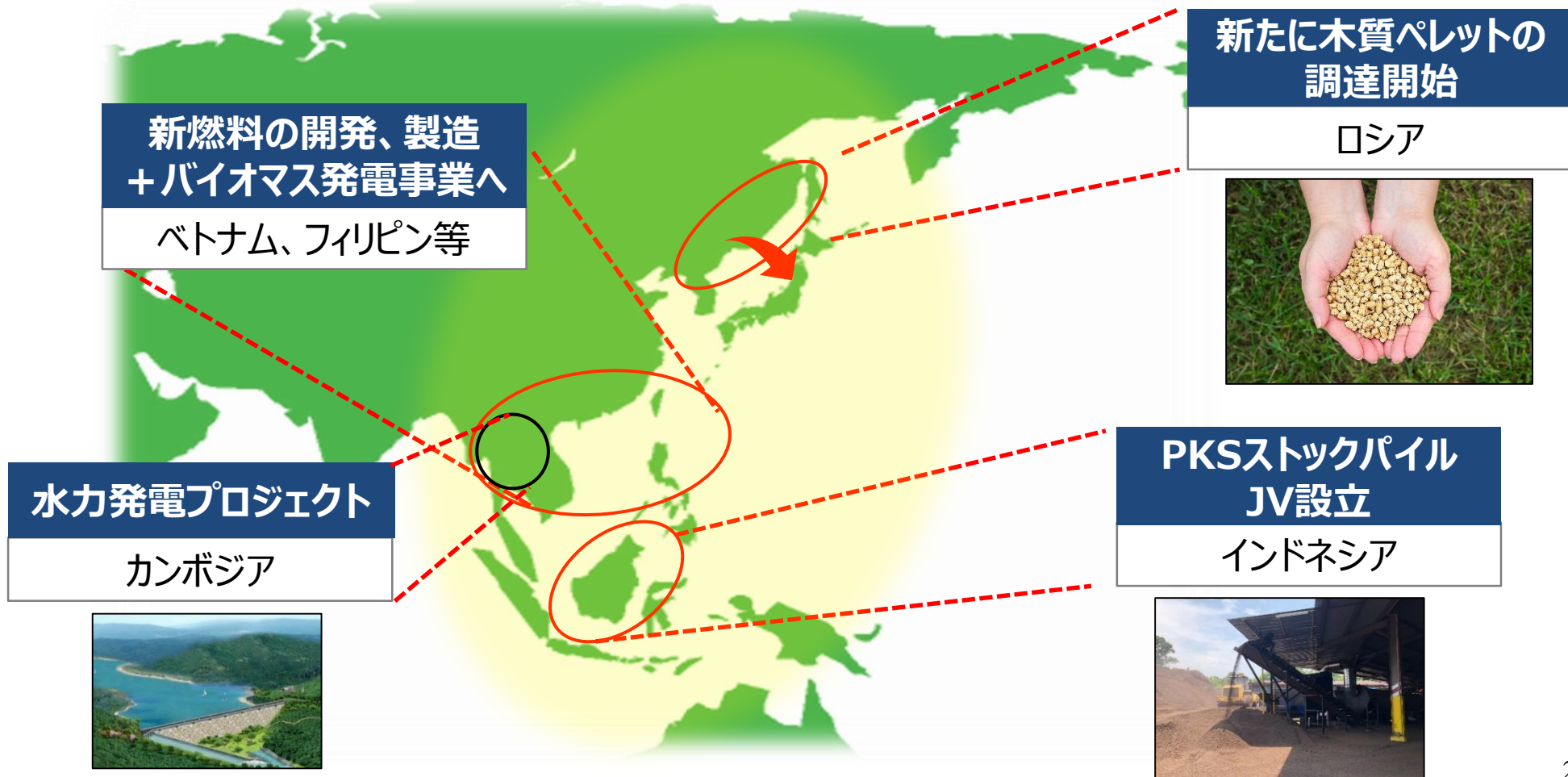


新潟県

## 施設概要

|         |                             |
|---------|-----------------------------|
| 設備出力    | 300MW(世界最大級)                |
| ボイラー型式  | 超々臨界圧再燃式ボイラー<br>(バイオマス燃焼方式) |
| 想定年間発電量 | 約2,000GWh                   |
| 燃料使用量   | 約120万t/年                    |
| CO2削減量  | 年間100万t程度                   |
| 使用燃料    | ・ニューソルガム<br>・木質ペレット         |
| 事業区域面積  | 約40万㎡                       |

- 大型バイオマス向けの燃料をロシア、ベトナム等で開発、製造を計画。さらにベトナム、フィリピン等で再生エネ開発の検討にも着手
- PKSは、サプライチェーンの強化を目的にインドネシア大手企業「DSN社」とストックパイル事業の合併会社設立
- 2019年10月にカンボジア水カプロジェクトに参画



## バイオマス発電燃料としてのソルガムの位置づけ

### ■ 品種改良により、食料用ではない燃料ソルガムを開発

#### ニューソルガムの特徴

- 環境負荷が低い
- 含水分が少ない
- 早生であり単位面積当たり高収量が見込める

### ■ 農業セクターにおけるニーズ

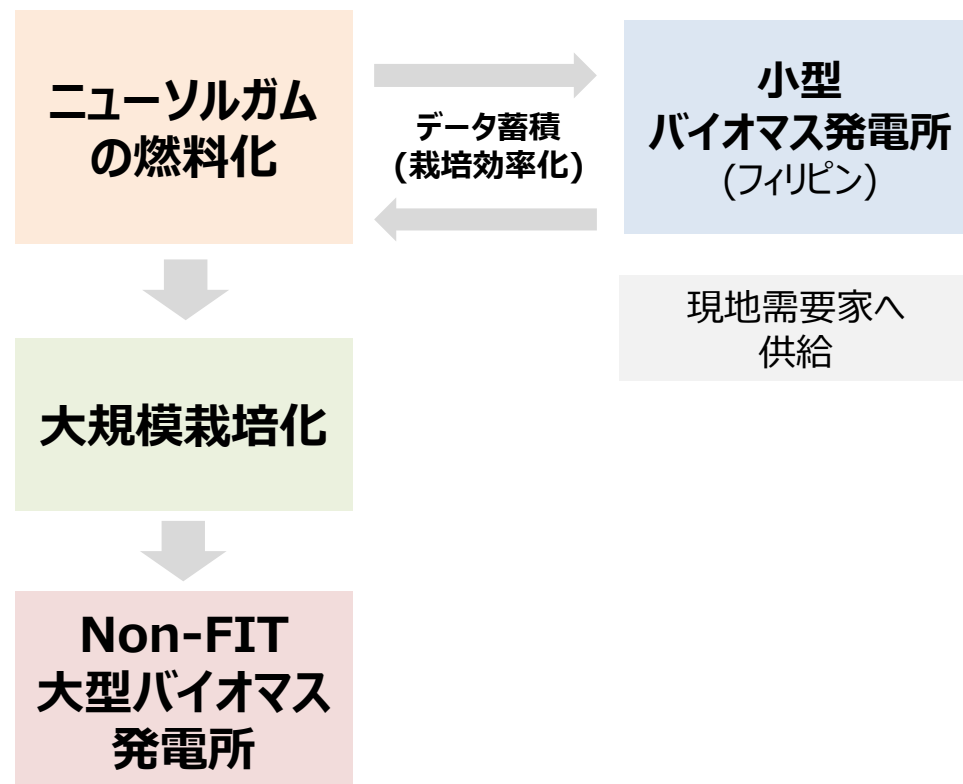
遊休地の利用、他農作物からのソルガムへの転作ニーズ有り  
⇒現地農業者の安定収入、雇用創出にも寄与



## フィリピン、ベトナムでの小型バイオマス発電所建設

### ■ “地産地消”にて燃料育成～発電事業を進める計画

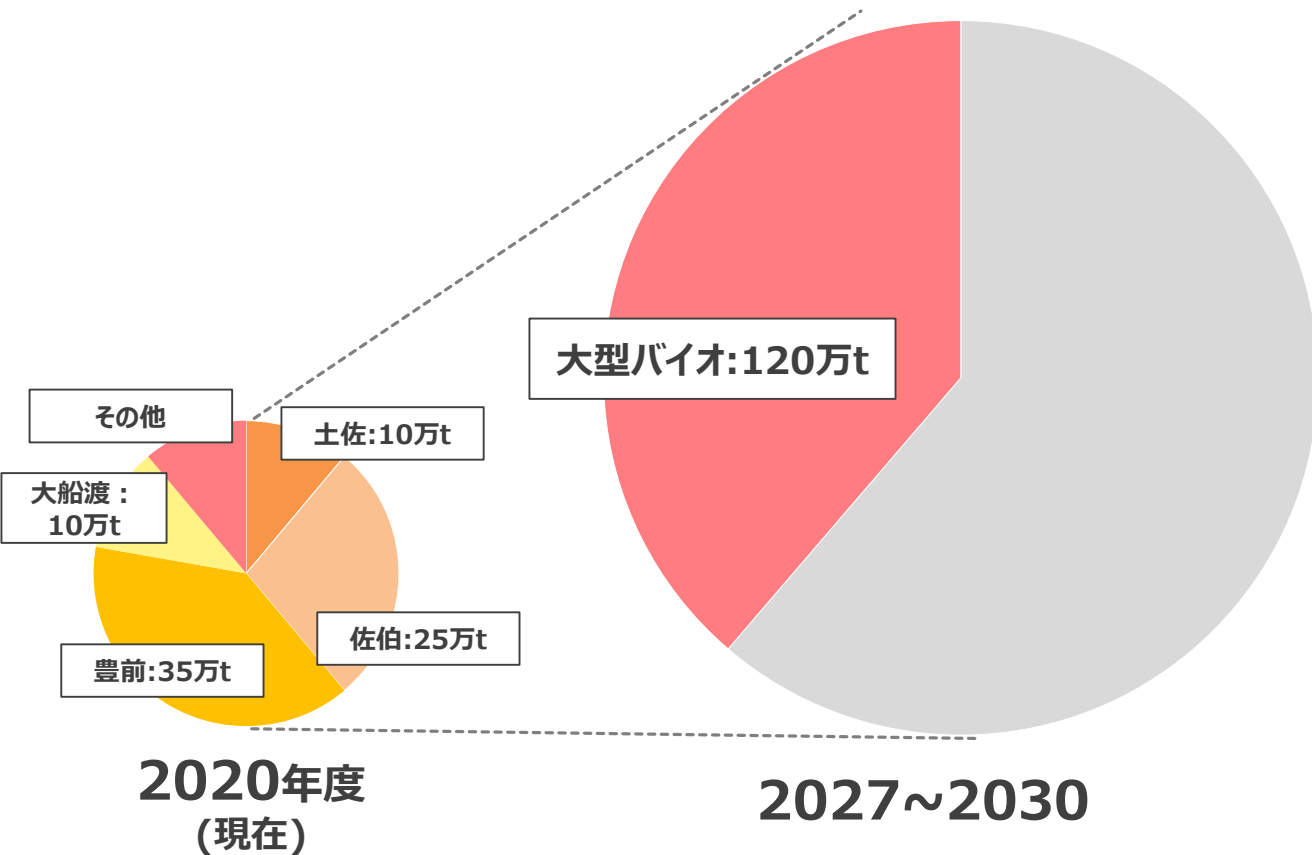
現地に小型バイオマス発電所を建設を検討中。栽培効率化に向けたデータ蓄積を実施予定



# バイオマス燃料取扱量の推移

- 大型バイオマス発電所の稼働により、当社のバイオマス燃料取扱量は拡大。  
新燃料「ニューソルガム」により、外部販売を拡大。

バイオマス燃料取扱量



バイオマス燃料の取扱量は  
現在の約 **90**万t から  
**300**万t 以上へ

バイオマス燃料の  
**メジャー**を目指す



# カンボジア水力発電プロジェクトの状況

- 当社初の海外、水力発電事業。国際コンソーシアムを組成。
- 年間電力の約1/4を輸入に頼るカンボジアにおいて、一年を通じて発電可能な本発電所は、同国の電力安定供給に大きな役割を果たす
- 2023年度営業運転開始を目標、35年間にわたり安定収益を見込む

## 概要

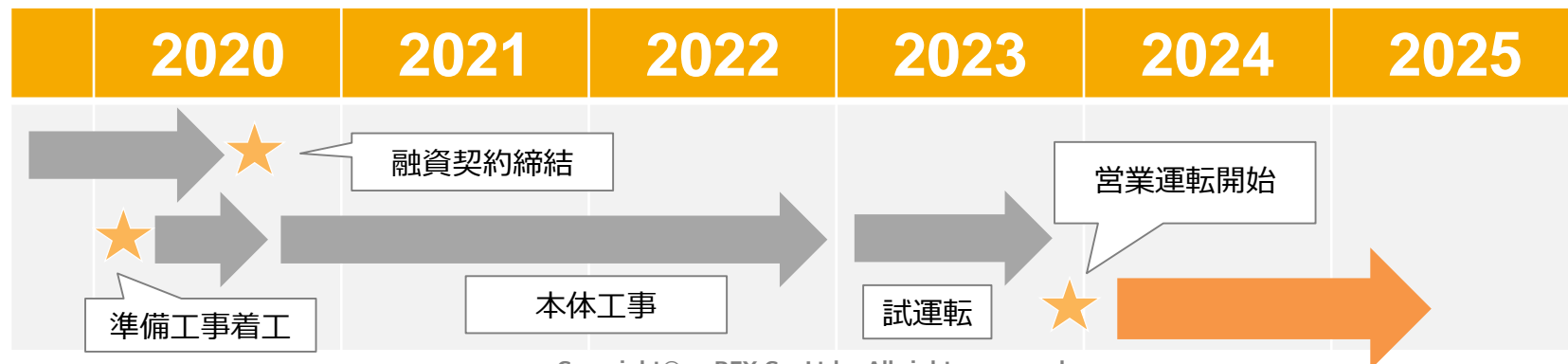
|          |  |
|----------|--|
| 発電能力     | 8万kW(369GWh/年)                         |
| 総投資コスト   | USD231百万                               |
| 売電契約先    | カンボジア電力公社                              |
| 出資比率     | 34%※                                   |
| 売電価格     | 7.9 ¢ /kWh 35年間固定                      |
| ダム面積、貯水量 | 85km <sup>2</sup> (12億m <sup>3</sup> ) |

※2020年中を目途に出資比率を51%に引き上げることを検討

## 完成予想図



## 現在のスケジュール(予定)



- 準備工事実施中。2023年度中の営業運転開始に向けて、計画通り進捗

全体写真(2020年7月撮影)



全体写真(2020年10月撮影)



# erex

**ENERGY RESOURCE EXCHANGE**